

なぜ、高齢者だけに認知機能検査？

# 「安全運転」と「認知症」



若い人でも、危険な運転をする人がいます。  
どうして高齢者だけ免許更新時に「認知機能検査」が必要なのですか？  
事故を起こしたこともないし、もの忘れは、年のせいかもしれないのに、  
「認知症かもしれない」といわれるのは、ちょっと。

確かに、「自動車の運転」と「認知機能検査」は、関係がうすいように感じるかもしれませんが、超高齢化社会を迎えたわが国では高齢ドライバーも増加傾向です。

「認知症」の要因の1つは加齢。75歳を越えたあたりから「認知症」の有病率も上がります。  
(厚生労働科学研究費補助金認知症対策総合研究事業 2013年 研究代表 朝田隆)

「認知症」は初めの症状として「もの忘れ」が目立つことがあり、原因の病気によってだんだんと「注意力」「集中力」「スムーズに物事をおこなうこと(遂行機能)」が低下することがあります。そのため「安全運転への影響」が心配されるのです。



そうなんですか。  
でも、まだ「認知症」と決まったわけではないのに、病院に行くのは。

高齢者の皆さんはもちろん、社会全体の安全を守るため、高齢ドライバーの方に「認知機能検査」を受けていただき、「認知症のおそれ」に該当する方には、病院の受診(診察)をお願いすることにしました。



「もの忘れ」の原因が、加齢によるものなのか、なんらかの病気が原因で認知機能が低下して忘れやすくなっているのか。病院で調べることで、原因がわかり適切な予防や治療につながります。心配な時は独りで悩まず相談してくださいね。  
「認知症」の原因によっても、運転行動に特徴があるといわれています。

	アルツハイマー病	前頭側頭型認知症	血管性認知症	レビー小体型認知症
記憶	いつ、どこでの記憶を思い出せない	言葉の意味や物の名前がわかりにくく、会話が通じにくくなる	出来事記憶の障害(軽い場合も)	あるが目立たない場合もある 症状が変動しやすい
場所の理解	侵される	保たれる	侵されることもある	侵される 特に位置関係がわかりにくくなる
普段の態度	取り繕い場合わせ	社会のルールを守らない 同じことを繰り返しやすい	意欲低下 わずかなことで泣いたり怒ったりする	幻視(ないものが見える) 錯視(見間違い) 大きな声の寝言
運転行動	行き先を忘れる 駐車・幅寄せが下手になる	交通ルール無視 わき見運転 車間距離が短い	運転中、ボーっとし 注意散漫になる 運転操作が遅くなる	注意・集中力が変動し 運転技術にもムラがある 自身の危険性に気が付いている場合もある

参考: 荒井由美子 認知症高齢者の自動車運転を考える家族介護者のための支援マニュアル(第2版)